



経団連自然保護協議会
Keidanren Nature Conservation Council
公益信託
経団連自然保護基金
Keidanren Nature Conservation Fund



生物多様性に関するビジネスマッチング 企業と NGO 等の交流会



2024年12月3日(火) 16:05~18:00

ピッチ:経団連会館 2階 経団連ホール

交流会:経団連会館 2階 国際会議場

主催:

経団連自然保護協議会

2030 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)

企画協力:

ビジネスフォーラム企画委員

(経済同友会、日本商工会議所)

プログラム

(経団連ホール)

16:05~出展企業 18 社 ピッチ

16:25~出展NGO 11 団体 ピッチ

(国際会議場)

16:05~開場

16:45~主催者挨拶






経団連自然保護協議会会長 西澤 敬二

16:50~交流・意見交換タイム

17:55~閉会挨拶

環境省 自然環境計画課長 番匠 克二

参加企業一覧

企業名	企業概要
 Sunlit Seedlings サンリット・シードリングス(株)	土壌や水中微生物の働きを可視化し、生態系・生物多様性を定量的に評価する技術を用いて、農林水産業や環境・インフラ関連の事業者への支援および SDGs に関するコンサルティングサービスを提供しています。
 Sagri サグリ(株)	サグリ株式会社は、化学肥料の高騰や耕作放棄地の増加、DX 化の遅れといった農業の課題を、衛星データと AI による「農地の見える化」で解決しています。また、カーボンクレジット創出にも取り組み、農林水産省の中小企業イノベーション創出推進事業にも採択されました。
 fabula fabula(株)	弊社は、100%食品廃棄物から新素材を開発する東大発のスタートアップです。食品廃棄物由来の新素材は最大でコンクリートの 4 倍の曲げ強度をもちながら、原料の色や質感、香りを保持しています。この技術で社会課題の解決に挑戦し、静脈産業におけるものづくりの価値を最大化します。
 ALNUR (株)アルヌール	微細藻類の培養装置とオペレーションノウハウを基に、バイオメディカル・ヘルスケア分野や CO2 削減などの環境分野で研究・開発を行い、技術提供や関連商品販売を実施。また、「カギケノリ」を活用し、日本の畜産と漁業をつなぐ環境プロジェクト「Kaginowa」を運営しています。
 Ever Challenge ハイパーアグリ株式会社 ハイパーアグリ(株)	フィールドマイスターは、田んぼの水を電気分解し、酸化還元電位を調整して、作物の根が養分を効率よく吸収できる水を作る装置です。この水が根の活性を促進し、肥料の使用量削減や溶存酸素の増加を通じて生物多様性の向上、メタンガスの抑制に貢献します。生産者の収益性と環境保全を両立するこの技術を広めるには、ご賛同いただける企業の協力が必要です。

企業名	企業概要
 (株)Aqua Fusion	<p>Aqua Fusion では水中超音波を用いた魚体識別をコア技術とした水中可視化システムを提供しています。具体的には、漁船や調査船、定点観測ブイを用いた海洋生物観測システム、最適な給餌を実現する養殖生簀の尾数カウントシステム、ブルーカーボンにもつながる藻場評価システムなどを通じて海洋生態系の保全に貢献しています。</p>
 大栄工業(株)	<p>農薬いらずのジャンボタニシ誘引剤&捕獲器『スクミッチ®シリーズ』。スクミリングガイは、生物多様性を損失させる侵略的外来種です。水稻などを食害し、絶滅が危惧される希少な植物を食害します。卵には神経毒が含まれており、卵を食べる生き物がほぼいないため、適切な防除対策が必要です。</p>
 PJP Eye(株)	<p>PJP Eye は 2017 年に仁科浩明によって設立され、社名は起業家としての経験から導き出した「情(Passion)」「旅(Journey)」「追求(Pursue)」の頭文字に由来します。主力商品はエコフレンドリーな植物由来のカーボンを使用した Cambrian-Battery で、電池ソリューションを展開しており、さらに CO2 排出権の創出や代行売買など「エネルギー・ソリューション」に向けて拡大展開を進めております。</p>
 DeepForest Technologies(株)	<p>ドローン画像を用いた世界初の樹種識別技術を開発した京大発のスタートアップ。一般的に販売されているドローンを活用して誰もが簡単に森林調査（樹種・サイズ・炭素蓄積量等）ができるソフトウェアを開発して、国内外に販売。森林調査業務や、J クレジットの森林計測も手掛ける。</p>
 (株)環境総合リサーチ (株)CTI リード	<p>環境総合リサーチは、最新の設備と技術力を基盤に、産業や工業、自然環境に関する各種の環境調査、測定分析を行っており、その一環として環境 DNA の分析も実施しています。CTI リードは、現地調査で野生生物の情報を取得することを主たる業務としています。陸域動植物の専門調査員、樹木医が多く所属しています。</p>
 (株)ムスカ	<p>国内に大量に有る畜糞や汚泥等の有機廃棄物をイェバ工を利用して肥料や飼料に再資源化する処理技術を持ち、食料生産や社会全体の有機資源循環、環境負荷軽減を目指して研究開発を行っている。農林水産業の持続的な発展に寄与する事業の研究開発に取り組んでいます。</p>
 森(株)	<p>森株式会社は、生物多様性の保全と持続可能な発展を目指す東京大学発のスタートアップです。「ネイチャーポジティブ社会の実現」をビジョンに掲げ、学術的な知見をもとに、生態系モニタリングや生物多様性評価を行い、クライアントのニーズに応じたサービスを提供しています。</p>
 クオックロップ(株)	<p>食農業界はサステナビリティに関する課題が多く、特に商品のエコスコアの可視化が難しい状況です。このため、一部の食材が淘汰される恐れがあります。My エコものさしは、生物多様性などのエコ指標を多角的に可視化し、事業者の工夫を伝えることで付加価値の創出を支援します。</p>
 (合)シーベジタブル	<p>合同会社シーベジタブルは、各地で激減する海藻の種苗生産に関する研究から、陸上及び海面での栽培によって量産し、社内外の料理人たちと連携して新たな食文化を開発・提案しています。海藻を通じて、海も人もすこやかな未来を育むべく活動しています。</p>
 amu(株)	<p>海洋プラスチックゴミの 44.5%を占める廃棄漁網を全国の漁師から回収し、アップサイクル。廃漁網リサイクル素材ブランド「amuca」を運営し、繊維やペレットに生まれ変わらせメーカーに販売、自社プロダクト開発を行います。また、製品の使用後は再回収してリサイクルすることで、「漁具から本当の意味でのサーキュラーエコノミー」を実装させます。</p>
 (株)アクポニ	<p>アクアポニックスは、水耕栽培と養殖を掛け合わせた持続可能な循環型農業で、生産性と環境配慮を両立させます。野菜と魚の生産だけでなく、資源やエネルギー、人、情報の循環を実現できます。また、循環型ビジネスの一部として自社の強みに合わせてデザインすることで、より大きな価値を創出します。</p>
 8thCAL(株)	<p>8thCAL 株式会社は、殺虫剤に依存する衛生管理を超え、予防重視の環境管理を実現します。啓蒙・教育・予防の 3 ステップを提唱し、分野を超えた協働を促進。「人と自然が共存できる、都市衛生の未来を創造します」というミッションを掲げ、地球と生態系に配慮した都市衛生管理の社会実装を目指しています。</p>
 オーシャンリペア(株)	<p>海の問題「磯焼け」の原因となるイスズミやアイゴの食害魚を有効活用するべく事業を展開しています。対象の魚は未利用魚であり、様々な手段で流通の創出を目指して、第一弾としてドッグフードを開発し販売中。</p>

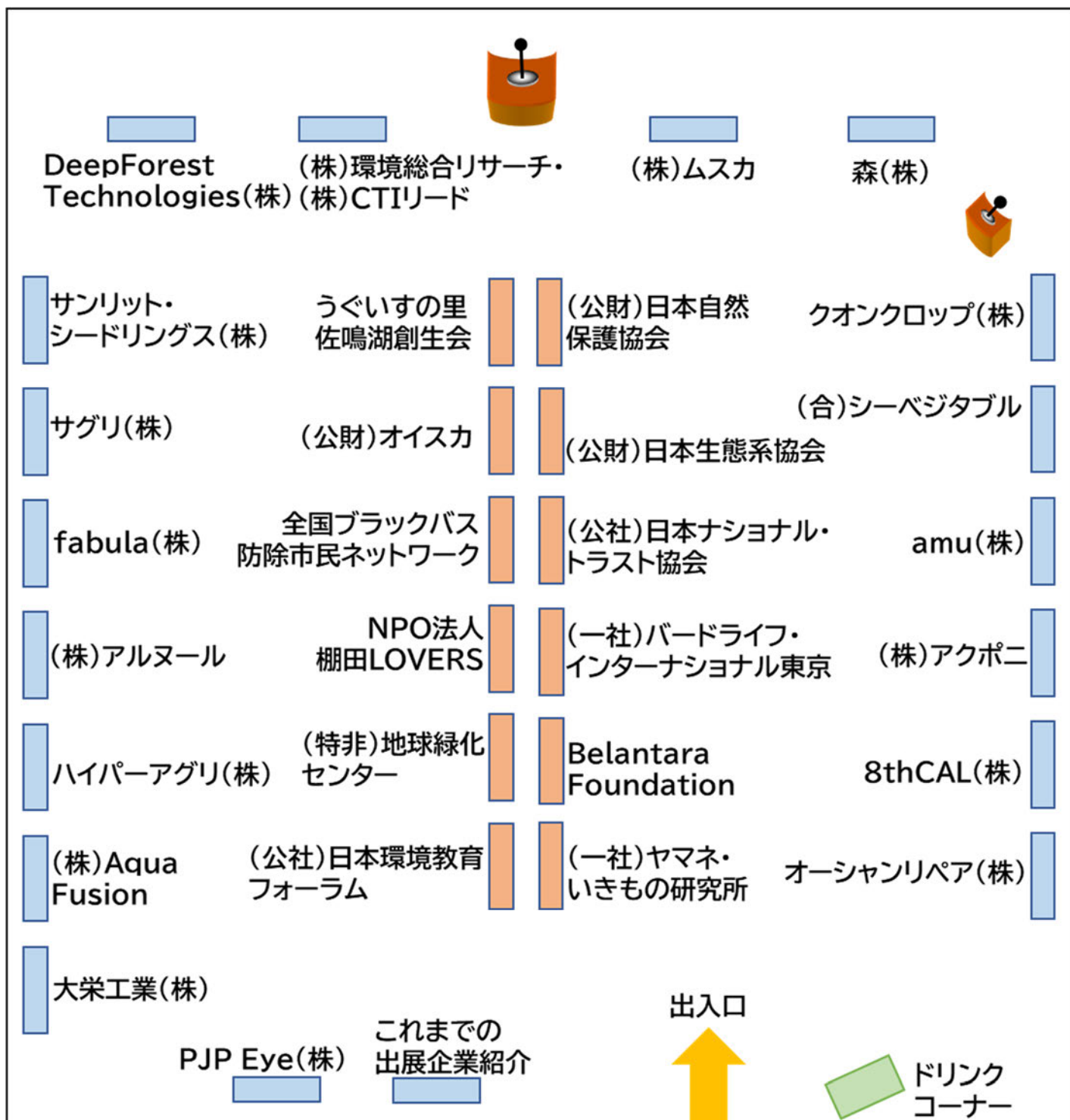
参加 NGO 一覧(五十音順)

団体名	団体紹介
うぐいすの里 佐鳴湖創生会	【環境省と国交省と農水省の連携強化を！】 具体課題 ①汽水域の底生生態系の健康診断 ②自浄作用を導く湖岸生態系の設計と実験 ◆ 求む①生態調査②実証実験③政策提言 →【日本の疲弊する汽水湖救済】に愛の手を。
(公財)オイスカ	1961 年よりアジア太平洋地域で農業技術指導を通じた人づくり、地域を豊かにするための森づくり等に取り組んでいます。森づくりを通して、生物多様性の回復や保全、地域の人々の生活の向上を目指しています。
全国ブラックバス防除市民 ネットワーク	2005 年、各地で水辺の生き物保全活動に取り組む団体が集まって誕生しました。活動に欠かせない外来生物問題(ブラックバスほか)についての情報集積と協力を目的としています。
NPO 法人 棚田 LOVERS	兵庫県の姫路の北のハート形の町:市川町で18年間美しい棚田の素晴らしさを伝えている。そして、生物・食・農・環境に関心を持っていただけるようにお米を育てる体験、自然体験を実施。メディア掲載180回。
(特非)地球緑化 センター	『緑、人を育む』を活動理念として、日本国内の森林保全、中山間地域活性化のための活動を推進しています。個人や企業、教育機関など様々な方へ向け、ボランティアプログラムの企画・提供、情報発信を行っています。
(公社)日本環境教育 フォーラム	JEEF では 2011 年よりジャカルタ湾岸でのマングローブ林回復に貢献しています。これまでの 13 年間で現地政府と協働で 100 万本以上の植林を実施しております。ぜひとも植林活動への参加をご検討ください。
(公財)日本自然保護協会	日本自然保護協会には「企業連携チーム」という企業の皆さまと自然保護を推進する専門のチームがあります。これまでに 380 社近くの企業の皆さまと連携を行ってきました。
(公財)日本生態系協会	自然と共存した社会づくりを目指し、全国各地の生態系ネットワークの再生、私有地の生物多様性への貢献度を見える化する JHEP 認証、ビオトープ管理士資格試験、ビオトープのコンクールなどを実施しています。
(公社)日本ナショナル・ トラスト協会	豊かな自然や美しい風景を将来世代に引き継いでいくため、寄付や買取りにより土地を取得し永久に守る「ナショナル・トラスト活動」に取り組んでいます。現在まで 59 か所、17,532,450 m ² を取得しました。
(一社)バードライフ・ インターナショナル東京	バードライフ・インターナショナルは英国を本部とする国際環境 NGO で、120 以上の国や地域のパートナーと連携し、科学的根拠を基に各国の政府や企業、地域コミュニティと協力して環境保全活動を推進しています。
Belantara Foundation	The Living in Harmony project ensures long term survival of remaining sumatran elephant population.
(一社)ヤマネ・いきもの 研究所	ヤマネや多様ないきものの研究と保全、未来の持続可能な地域・地球社会を支える人材育成を目指す。体験と知識と対話を柱とする企業人への生物多様性セミナー＆ヤマネをフラッグとした森の自然共生サイト普及を展開中

参加企業の PR 動画については、環境省 YouTube チャンネルよりご覧いただけます。
こちらの QR コードから再生リスト「生物多様性ビジネスマッチング」をご確認ください



会場レイアウト



「経団連自然保護協議会 2024 年度シンポジウム・2030 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)第4回ビジネスフォーラム」
 「生物多様性に関するビジネスマッチング・企業と NGO 等の交流会」に、ご参加いただき、ありがとうございました。
 今後の参考にさせていただきたく、以下 QR コードからアンケートの回答に、ご協力お願い申し上げます。



「ネイチャーポジティブ」イメージキャラクター
 「だいだらポジ(DAIDARAPOSIE)」
 日本各地で山や湖、川を作ったとして伝承されている巨人「だいだらぼっち」がモチーフで、地球のポジティブな未来を抱きしめて見守り続けるキャラクターとして制作されました。

